
寒いッス…

ゆるいひと。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寒いッス：

【Nコード】

N4795P

【作者名】

ゆるいひと。

【あらすじ】

執事の見習いであるが現状がパシリのイアル。

そんなイアルの執事用の服が破れたので繕ってくれたアイ。

アイが制服を繕ったのか、

イアルはそんなこと知る由もなかった。

(前書き)

この小説は…

ショタコンや女装が存在します。

以下の物を見ると嫌悪を感じる方はすぐに戻りましょう。

雪が降るほど寒くなってきた。

少年イアルはため息をついた。

ふう：と息を吐きだすと、息が白い。

この少年イアルは執事の見習いである。

しかし、現状はほぼパシリ状態である。

それと、執事用の服が破れてしまったので、メイド長のアイが繕ってくれるそうだ。

「そうだ、アイさんにお土産買わなくちゃ」

イアルがそんな事を言いながら館に帰った。

「イアル、お帰り。制服なおしたよ」

「ありがとうございます！」

そのままイアルはアイに連れられアイの部屋に入る。

そこでは、石油ストーブがパチパチと音を立てている。

青白い炎が鏡に写ってとてもきれい。

アイが取り出したのは、そう、制服だった。

そこにアイが持っていたのは、猫耳のスク水。

どうして：制服がスク水になるんだよ：

紫の髪の毛に青い目のイアルは何も言うことができない。

「ほらほら、仕立ててあげたんだから、着なさい！」

「イヤ：アイさん、それ制服じゃないし」

その時、石油ストーブの上にあるヤカンが笛を吹いた。

「ホラッ！ヤカンも着ろって言ってんだから！」

「そんな無茶なあっ、ああ！」

イアルが抗議した時、アイにイアルは押し倒された。

「ほおくらあゝ。ちゃちゃと着なさい！」

この人、マジだ。

イアルは心の中でそう思った。

しかし、ここまで来てしまっは、もはや着るしかない。
猫耳を手始めに装着したイアル。

「それは後」

ビシッ！とアイに言われ、イアルは聞く。

「なんでですか？」

「メイド服も着るから」

いうやいなや、アイに服をはがされたイアル。

「うう…寒いッス…」

「ほら、執事の言葉はそんなに乱れてない」

アイに叱責され、素直に謝るイアル。

「ほらほら、ちゃちゃと着なさい！」

仕方なく、スク水の上に露出度のやけに高いメイド服を着せられたイアル。

アイがその後、猫耳を付けて言った。

「良く出来ました」

チュとキスされ慌てふためくイアルを横目に

「寒いッスから、ちゃちゃと服着なさいね！」

写真は撮ったから、と呟いてアイは部屋を出た。

アイがいない、アイの部屋に取り残されたスク水メイド猫耳のまま
取り残されたイアルは

「どうしよう…」

と小さくつぶやいて着替え始めた。

笛の吹かないストーブだけが彼の心情を知っているのだ。

(後書き)

はい、ゆるいひと。です。

短編小説を掲載してみました。

ナニコレ？

自分でも超がたがたが良く分かります。

イアルとアイは今後出てくるのだろうか…

実はコレ、友人から頂いたお題の小説でした。

色々スイマセン！

では

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4795p/>

寒いッス…

2010年12月13日21時41分発行